

# 病態生理学

単位数（時間数）：2 単位（30 時間） 必修/選択：必修 履修年次：1 年次 開講時期：後期

科目責任者（職位・氏名）：教授・三浦靖彦

科目担当者（職位・氏名）：

---

対応DP：基礎力をもった社会人 ケア・スピリット 看護専門職者としての基本姿勢  
看護の基礎的・専門的知識・技術 社会への関心と地域貢献 生涯学習・自己研鑽

科目記号：27

## ■ 授業概要

病気を抱える人間を理解するうえで基盤となる、病気の成り立ちとその症候についての基本的知識を修得し、疾病治療論の学修へと理解を教授する。具体的には、細胞の傷害、再生、老化と変性を理解し、炎症、感染、アレルギーの基礎的知識を学修する。循環障害、ショック、疼痛、浮腫等主要な症状に関して、その成り立ちと治療について教授する。

## ■ 到達目標

1. 細胞・組織の正常（恒常性）とその異常について理解できる。
2. 臨床でよく遭遇し、かつ重要な症状・徴候について、その原因の理解・分類ができる。
3. 上記症状・徴候の問診・検査のポイントが理解できる。
4. 上記症状・徴候の処置、治療の原則が理解できる

## ■ 教育内容

疾病の成り立ちと回復の促進

## ■ キーワード

教科書の各章の最後にある「重要用語」および講義での「到達度チェック」

## ■ 授業計画（授業項目、授業内容・授業方法、担当教員）

回	授業項目	授業内容・授業方法	担当
1	病理病態論	序論、遺伝子異常、細胞傷害・変性と細胞死	三浦
2	病理病態論	腫瘍、炎症と修復	三浦
3	病理病態論	免疫異常、感染、循環障害、体液異常	三浦
4	病理病態論	代謝異常、中毒、放射線障害、外傷	三浦
5	疾患論	序論、呼吸器の疾患、循環器の疾患、消化器の疾患、血液・造血器の疾患、免疫・アレルギー疾患	三浦
6	疾患論	感染症、脳・神経の疾患、運動器の疾患、腎・泌尿器の疾患、生殖器・乳腺の疾患、内分泌・代謝疾患	三浦
7	病態症候論	症候と疾患の関係、序論、痛み、頭痛、胸痛、腹痛、腰背部痛、関節痛	三浦
8	病態症候論	高体温、低体温、倦怠感、睡眠障害、皮膚掻痒	三浦
9	病態症候論	食欲不振、悪心、嘔吐、体重増加、体重減少、肥満	三浦
10	病態症候論	浮腫、脱水、尿量異常、排尿回数異常、尿所見異常、リンパ節腫脹、ショック	三浦
11	病態症候論	意識障害、けいれん、めまい	三浦
12	病態症候論	嗝声、呼吸困難、咳嗽、喀痰、喀血、チアノーゼ	三浦
13	病態症候論	不整脈、貧血、レイノー症状、感覚過敏、感覚鈍麻、しびれ、運動麻痺、運動失調	三浦
14	病態症候論	腹水、腹部膨満、摂食嚥下障害、吐血、下血、下痢、便秘、黄疸	三浦
15	まとめ	振り返りと対策	三浦

## ■ 履修条件

形態機能学Ⅰ（解剖学）、形態機能学Ⅱ（生理学）を履修済みであること。

## ■ 成績評価方法

筆記試験 80%、小テスト 10%、レポート 10%などで総合的に評価し、60 点以上で合格とする。

## ■ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

授業の始まりの 10 分程度を利用して、前回授業に対する質疑応答を行う。

## ■ 教科書

- ・『デジタルナーシング・グラフィカ』メディカ出版  
疾病の成り立ち ① 病態生理学

## ■ 参考書・参考資料等

- ・小林正伸著（2019）『なるほどなっとく！病理学 病態形成の基本的な仕組み 改訂 2 版』南山堂
- ・浅野嘉延、吉山直樹（2023）『看護のための臨床病態学 改訂 5 版』南山堂

## ■ 準備学修に必要な時間及び具体的な学修内容

- ・事前に講義範囲のテキスト該当箇所を読み、予習をしておくこと。
- ・授業 1 コマにつき、事前・事後学修として平均するとそれぞれ 90 分程度必要とする。
- ・講義の初めに前回の講義内容に関する Q&A を実施する予定。

## ■ 担当教員からのメッセージ

病気をしたことがない人はいません。これまでに経験した疾患を思い出しながら、自分のことと置き換えて考え、学習することが大切です。「一般用語」から「専門用語（病理学用語）」への置き換えが必要です。すでに解剖生理学等で学修した内容も合わせ、各自の病気や怪我などの経験を専門用語で表現できるようになることが目標です。また、新聞、テレビ、SNS などで関連する情報に興味を持って意識的に接すること。プロの看護師として活用できる総合力を身につけましょう！

## ■ 研究室、連絡先、オフィスアワー

臨床倫理研究センター長室、miura★iwate-uhms.ac.jp、講義の後の時間に対応可能。

(※メールの際は★を@にしてください)

## ■ 担当教員の実務経験の有無

有

## ■ 担当教員の実務経験

医師

## ■ 教員以外で指導に関わる実務経験者の有無

無

## ■ 教員以外で指導に関わる実務経験者

## ■ 実務経験を活かした教育内容

内科医（総合診療医・腎臓専門医）として長年経験してきたノウハウを活かし、臨床現場で役立つ講義内容を心がけています。